



**札幌医科大学学術機関リポジトリ *ikor***

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	基礎看護学における看護倫理教育の検討-本学看護学生の道徳的推論と道徳的発達段階の特徴-
Author(s)	堀口, 雅美; 大日向, 輝美; 酒井, 英美; 木口, 幸子; 田野, 英里香; 稲葉, 佳江
Citation	札幌医科大学保健医療学部紀要,第 5 号: 25-33
Issue Date	2002 年
DOI	10.15114/bshs.5.25
Doc URL	<a href="http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/6546">http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/6546</a>
Type	Journal Article
Additional Information	
File Information	n13449192525.pdf

- コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等が有します。
- 利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
- 著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

## 基礎看護学における看護倫理教育の検討 —本学看護学生の道徳的推論と道徳的発達段階の特徴—

堀口 雅美, 大日向輝美, 酒井 英美, 木口 幸子, 田野英里香, 稲葉 佳江  
札幌医科大学保健医療学部看護学科

### 要 旨

看護倫理教育の検討に関する基礎的資料を得るために、看護学生を対象に、道徳的推論および道徳的発達段階に関する質問紙集合調査を実施した。有効回答数は48名 (98.0%)、調査対象の平均年齢は18.7±1.2歳で、以下の結果が得られた。

- 1) 道徳的推論のうち、社会的規範意識を高齢者と障害者を例にあげて援助を行うかどうかをたずねたところ、高齢者へは16名 (33.3%)、障害者へは37名 (77.0%) が積極的に援助を行うと回答した。
- 2) DIT日本版のうち、3つの例話をもとに道徳的発達段階を検討したところ、各個人の道徳的発達段階は例話1では30名 (62.5%)、例話2では33名 (68.8%)、例話3では35名 (72.9%) が第4段階であった。

以上のことから、本調査対象の道徳的推論は社会的環境による影響を受け、また道徳的発達は社会秩序の維持に価値が置かれる段階へと発達を遂げていることが示唆された。

<牽引用語>看護学生、道徳的推論、道徳的発達段階

### I 緒 言

看護者の倫理的判断能力は患者の生命や生活の質に関与する倫理的問題への感知力、看護者自身の価値観と関係者間の価値観の葛藤や対立についての分析および判断力、さらにこれらの認識過程を実際的なケア行動に結びつけていく総合的な能力である。この能力の基盤には幼少時からの道徳性の発達があり、その延長上に看護者の専門職としての倫理的判断能力が培われる。

しかし昨今では、若者の道徳性や論理的な分析力および総合力の低下が指摘されており、そのことは看護学生も例外ではない。とりわけ道徳性はその個人が所属している社会の影響を大きく受け、何を是とし何を非とするかは個人の価値判断に基づくが、それ自体がすでに社会の価値観の影響下に存在する。そして、看護実践は対象者に対して何をなすべきか、何が最良であるのかという意思決定の連続であり、常にどのような判断が倫理的に妥当であるのかを問われている状況にある。看護者の倫理性は看護実践の基盤に位置している。さらに科学技術

の発達に伴い、看護者はこれまで以上に価値の葛藤に直面する機会が多くなってきていることから、看護基礎教育においては看護学生の倫理的な認識体系やその分析と判断力をどのように育成するかが重要な課題となる。

道徳性についてはさまざまなとらえかたがあるが、そのうちの一つとして認知発達理論に基づいた、コールバーグの3水準6段階の道徳的発達段階がある<sup>1)</sup>。それによると、個人は水準1の「慣習的水準以前」から水準2の「慣習的水準」、さらに水準3の「慣習的水準以降、自律的、原理化された水準」へと道徳的発達を遂げるが、すべての人が第6段階に達するわけではないと考えられている(表1)。さらに道徳判断の検査方法には、レストらが開発したDIT (Defining Issues Test:道徳的論点検査)、MJI (The Moral Judgment Interview:道徳的判断面接)、SMR (Socio Moral Reflection:社会道徳的内省)がある<sup>2)</sup>。コールバーグは道徳的葛藤を引き起こす例話を提示し、葛藤の解決についての面接を行い、その分析をした。レストらは葛藤をどのような問題としてとらえるかということに着目し、あらかじめ用意した選択項目

表1 道徳的発達段階の定義

水準1：慣習的水準以前	
第1段階	罰と服従への志向 罰を避け、力のあるものに対して盲目的に服従することは、それ自体価値のあることとされる。
第2段階	道具主義的な相対主義志向 正しい行為とは、自分の欲求や場合によっては他人の欲求を満たすための手段である。公平、相互性、平等な分配という要素は含まれているが、それらは常に、物質的で実用主義的に解釈される。
水準2：慣習的水準	
第3段階	対人的同調、あるいは「よいこ」志向 善い行為とは、他を喜ばせたり、助けたりすることであり、他者から肯定されるようなことである。行為は、しばしば、その意図の善し悪しによって判断され、「善良であること」によって是認を受ける。
第4段階	「法と秩序」志向 権威や固定された規則、そして社会秩序の維持を指針とする。正しい行為とは、義務を果たすこと、権威への尊敬を示すこと、すでにある社会秩序をそれ自体維持することである。
水準3：慣習的水準以降、自律的、原理化された水準	
第5段階	社会契約的な法律志向 正しい行為とは、一般的な個人の権利や、社会全体によって批判的に吟味され一致した規準によって定められる傾向がある。私的な価値観や見解の相対性を明確に意識し、一致に達するための手続き上の規準を強調する。
第6段階	普遍的な倫理的原理の志向 正しさは、論理的包括性、普遍性、一貫性に訴えて、自分自身で選択した「倫理的原理」に従う良心によって定められる。それらの倫理的原理は、抽象的であり、倫理的である（黄金律一己の欲するところを人に施せ、定言的命令）。

〔ローレンスコルバーク：道徳性発達における普遍的なものとの相対性，永野重史編，道徳性の発達と教育（コルバーク理論の展開），東京，新曜社，1985，p22-23〕をもとに著者作成

についてその重要度を質問紙で回答してもらった方法を開発した。このDITはコルバークのスケールとの相関が高いことが示されており、また日本においてはすでに山岸がDIT日本版を開発し、その妥当性を検討している<sup>3)</sup>。

そこで看護倫理教育の検討の一環として、今回は初学時における教育を考えるために看護学生を対象に、道徳的推論および道徳的発達段階に関する質問紙調査を行い、実態を分析した。なお、道徳的推論とは「価値の対立を解決するために倫理的に理屈の通った行動をとるときに使う認知的過程」<sup>4)</sup>をいう。

## II 方法

### 1. 調査対象

調査対象は本学看護学科1年生（平成12年度入学生）52名のうち、調査当日に登校し、文書と口頭で調査の協力が得られた49名である。回収率は100.0%、有効回答者数は48名（98.0%）で、調査対象の平均年齢は18.7±1.2（18～25）歳であった。

### 2. 調査方法

調査方法は無記名自記式質問紙を用いた集合調査で、平成12年10月3日に実施した。調査内容は基本的属性、道徳的推論に関すること、および例話に関することとした。道徳的推論の調査では総務庁青少年対策本部による調査<sup>5)</sup>の一部を参考に、社会的規範意識、人生観と仕事に関する意識、および社会的存在性に関する意識についての調査用紙を著者らが作成した。また道徳的発達段階に関する例話に関して、山岸<sup>6)</sup>の調査で6つの例話が用いられているが、ここでは現在の日本の現状を考慮し学生が考えやすい3つの例話を取

付表1 例話

例話1	Aさんの奥さんが、がんで死にかかっています。お医者さんは「ある薬を飲めば助かるかもしれないが、それ以外は助かる方法はない」と言いました。その薬は、最近ある薬屋さんが発見したもので、10万円かけて作って、100万円で売っています。Aさんは、できる限りのお金を借りて回ったのですが、50万円しか集まりませんでした。Aさんは、薬屋さんにわけを話し、薬を安く売るか、または不足分は後で払うから50万円で売ってくれるように頼みました。でも薬屋さんは「私がお金を貸してあげた。私がそれを売って、お金を儲けようと思っているのです。」と言って、頼みを聞きませんでした。Aさんはとても困って、その夜、奥さんを助けるために、薬屋さんの倉庫に泥棒にはいり、薬を盗みました。
例話2 (例話1の続き)	ところが、その薬も奥さんにはききませんでした。お医者さんはもう何もすることがありません。しかもあと一ヶ月位しか生きられないこともわかっています。奥さんの痛みはともひどく麻酔もききません。奥さんはあまり苦しいので、お医者さんにも、「もうとても我慢できません。それにどうせ私はもうすぐ死ぬのです。どうぞ死ぬための薬を飲ませてください。」と頼みました。
例話3	DとEという二人の兄弟がいました。彼らには人に言えない訳があって、大急ぎでその町から去ろうとしていますが、そのためには、10万円が必要です。Dは、大きな会社の倉庫に泥棒に入り、10万円盗みました。Eは、困っている人を助けてくれるという噂のある老人の所へ行って、「兄がひどい病気で手術に10万円かかるのです。お金は必ず返しますからどうぞ貸してください。」と嘘を言って頼みました。Eは返すつもりはありませんが、Eのことをよく知らない老人は、彼に10万円渡しました。DとEは、それぞれ10万円ずつもって、町から去って行きました。

〔山岸明子：日本における道徳判断の発達，永野重史編，道徳性の発達と教育（コルバーク理論の展開），東京，新曜社，1985，p243-267〕より抜粋

り上げた(付表1)。結果は各質問項目の単純集計をした。なお、道徳的推論のうち山岸の例話1~3に関する各項目について、それらは道徳的発達段階(第2~5段階)のいずれかに相当した質問となっており、その度数分布を示した。また質問紙の具体的内容は表2~7に、道徳的発達段階の判定方法はコールバーグによる方法に基づき、その算出方法は表8の注に示した。

### Ⅲ 結 果

#### 1. 調査対象の概要

調査対象は男性2名(4.2%)、女性46名(95.8%)であった。就業経験の有無では、常勤での就業経験のある人が1名(2.1%)、アルバイトやパートで働いている、あるいは働いたことがある人が43名(89.6%)、賃金報酬のある仕事は全くしたことがない人が4名(8.3%)であった。

#### 2. 社会的規範意識についての回答状況

まず、満員の地下鉄で高齢者が立っている場合にどうするかという問いに対し、「どのような状況にあっても譲る」という人が16名(33.3%)、「その他」17名(35.4%)であった。「どのような状況にあっても譲る」とした主な理由は「高齢者は立っているのが大変だから」がもっとも多かった。「その他」とした人は「譲るときと譲らないときがある」「自分が疲れていたから譲らないかもしれない」、そして「高齢者によって譲られるのを嫌がる人もいる」「自分が疲れているときは立っているのも辛いから譲らない」がその理由であった。

車椅子を使用している障害者が困っている場面では、「どのような状況にあっても手伝う」と回答した

人が37名(77.0%)であり、その理由は「困っている人を助けるのは当然だから」ということであった。

自動販売機に関する質問では、「正規の方法で購入する」と答えた人がもっとも多く、その理由は「悪いことをして後悔したくない」「盗みと同じことだから」であった(表2)。

#### 3. 人生観と仕事に関する意識についての回答状況

「ふだんどのようなことを大切に生きていたいと思うか」という質問に対し、「毎日が楽しいこと」を第1位とした人が23名で、次に「身近な人との愛情を大切にすること」であった。また「人が働くことの意味」では「経済的自立をする」ことを第1位にあげた人が20名、第2位でもっとも多かった回答は「自分の才能を生かす」であった(表3)。

#### 4. 社会的存在性に関する意識についての回答状況

社会的存在性に関する意識として17項目についてたずねた。結果は「親が年老いたら、世話をしたり面倒をみたりすることは人として大切である」「今の社会は、障害者に対する配慮が足りない」「自分と考え方の違う人にも、その人にはその人の考える理由や動機がある」「困っている人を助けることは人道的なことである」「ゴミの選別処理や地域の美化を守ることは、その地域に住むものとして当然である」という5項目について、「大いにそう思う」「かなり思う」と回答した人を合わせると85.5~97.9%であった(表4)。

#### 5. 「例話1」に関する回答状況

例話1は「ハインツのジレンマ」として知られるもので、妻の命を救うために夫が薬を盗むかどうかという葛藤を取り上げている。まず、Aさんは薬を盗んだ方がよかったかどうかをたずねたところ、「盗んだ方がよい」10名(20.8%)、「わからない」26名(54.2%)、

表2 社会的規範意識

単位：人(%)

質 問	選 択 肢	回 答 数
1. 満員の地下鉄(バス、JR)であなたが座っている目の前に、高齢者の方が来て立っていました。あなたならどうしますか。	①多くの状況で座っている	6 (12.5)
	②友達や知り合いと一緒にいるときは譲る	5 (10.4)
	③友達と一緒にいる場合は座っている	4 (8.3)
	④どのような状況にあっても譲る	16 (33.3)
	⑤その他	17 (35.4)
2. あなたが横断歩道を渡ろうとしたとき、あなたから歩道に車椅子を乗り上げられなくて困っている様子でした。あなたならどうしますか。	①そのまま通り過ぎる	0 (0.0)
	②人が見ているときは手伝う	0 (0.0)
	③友達と一緒にいる時は通り過ぎる	0 (0.0)
	④どのような状況にあっても手伝う	37 (77.0)
	⑤その他	11 (22.9)
3. ある人が、自動販売機でコインを入れなくても飲料水を手に入れる方法を教えてくださいました。あなたならどうしますか。	①さっそくその方法でやる	11 (22.9)
	②周りに誰もいなかったら、その方法でやってみる	3 (6.3)
	③友達と一緒にならやってみる	9 (18.8)
	④正規の方法で購入する	21 (43.8)
	⑤その他	3 (6.3)

表3 人生観と仕事に関する意識

単位：人（％）

質 問	選 択 肢	第1位	第2位	第3位
1. 人の生き方にはいろいろあると思いますが、あなたはふだんどのようなことを大切に生きていきたいと思っていますか。以下の項目で、あなたにとって価値が高いと思う順に第1位から第3位まで順位をつけてください。	①経済的に豊かになること	0	2	8
	②身近な人との愛情を大切にすること	19	21	5
	③社会や人々のために役立つこと	3	4	14
	④自分の趣味や関心ごとを中心に暮らすこと	1	6	11
	⑤社会的地位や高い評価を得ること	0	0	4
	⑥毎日が楽しいこと	23	14	4
	⑦その他	2	0	2
2. 人の生き方と同様に、「働く」ことに対しての考えにもいろいろあると思います。あなたは、「人が働く」ということをどのように意味づけていますか。あなたにとって「働く」意味で大切に思っている順に第1位から第3位まで順位をつけてください。	①豊かな生活を楽しむ	2	6	5
	②経済的自立をする	20	8	9
	③社会の一員として社会や人々に役立つ	9	9	12
	④自分の才能を生かす	6	12	7
	⑤社会的地位や高い社会的評価を得る	0	2	2
	⑥仕事を通して他の人々と社会的関わりをもつ	9	10	12
	⑦その他	2	1	1

表4 社会的存在性に関する意識

単位：人（％）

質 問	大いに 思う	かなり 思う	いくらか 思う	あまり 思わない	全く 思わない	計
1) 親が年老いたら、世話をしたり面倒をみたりすることは人として大切である	30 (62.5)	14 (29.2)	4 (8.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	48 (100.0)
2) 今の社会は、高齢者に対する配慮が足りない	12 (25.0)	21 (43.8)	12 (25.0)	3 (6.3)	0 (0.0)	48 (100.1)
3) 今の社会は、障害者に対する配慮が足りない	21 (43.8)	20 (41.7)	6 (12.5)	1 (2.1)	0 (0.0)	48 (100.1)
4) 人間の能力は個人で異なるのだから、能力によって地位や待遇に差があっても当然である	2 (4.2)	3 (6.3)	27 (56.3)	14 (29.2)	2 (4.2)	48 (100.2)
5) 重要なことは、皆で話し合っ決めてよりも、リーダーの決断の方が間違いが少ない	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (6.3)	20 (41.7)	25 (52.1)	48 (100.1)
6) 自分と考え方の違う人にも、その人にはその人の考える理由や動機がある	36 (75.0)	11 (22.9)	1 (2.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	48 (100.0)
7) 自分がどうしてもやりたいことがあるのに、無理にがまんしてやらないのは間違いである	2 (4.2)	8 (16.7)	19 (39.6)	16 (33.3)	3 (6.3)	48 (100.1)
8) 自分の目標に向かってやり遂げるためには、多少悪いことをするのもやむを得ない	1 (2.1)	0 (0.0)	11 (22.9)	31 (64.6)	5 (10.4)	48 (100.0)
9) 人間としてやってはいけないことは、どんな理由があろうともやるべきでない	20 (41.7)	8 (16.7)	15 (31.3)	4 (8.3)	1 (2.1)	48 (100.1)
10) 困っている人を助けることは人道的なことである	22 (45.8)	20 (41.7)	6 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	48 (100.0)
11) 自分の生活を犠牲にしてまで、社会奉仕活動をする必要はない	0 (0.0)	13 (27.1)	22 (45.8)	11 (22.9)	2 (4.2)	48 (100.0)
12) ゴミの選別処理や地域の美化を守ることは、その地域に住むものとして当然である	26 (54.2)	20 (41.7)	2 (4.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	48 (100.1)
13) 地域に住む人々が気持ちよく暮らすためには、お互いがまんししなければならない	3 (6.3)	13 (27.1)	26 (54.2)	6 (12.5)	0 (0.0)	48 (100.1)
14) 多少自分の考えや生き方と違って、周りとの和が大切である	4 (8.3)	15 (31.3)	23 (47.9)	6 (12.5)	0 (0.0)	48 (100.0)
15) 周りの人と軋轢を生じる生き方は、その人が損をするだけである	2 (4.2)	12 (25.0)	17 (35.4)	17 (35.4)	0 (0.0)	48 (100.0)
16) 自分や人々の自由は、法や道徳などの社会的規範によって守られている	3 (6.3)	14 (29.2)	26 (54.2)	5 (10.4)	0 (0.0)	48 (100.1)
17) 自分や人々の権利は、人としての義務を果たすことによって守られている	5 (10.4)	20 (41.7)	21 (43.8)	2 (4.2)	0 (0.0)	48 (100.1)

表5 「例話1」に関する回答状況

単位：人（％）

質 問	道徳的発達段階*	非常に重要	かなり重要	いくらか重要	あまり重要でない	全く重要でない	合計
1) 我々の社会の法律が、そのことを是認するかどうか	4	10 (20.8)	18 (37.5)	14 (29.2)	4 (8.3)	2 (4.2)	48(100.0)
2) 愛する妻のことを思ったら盗むのが自然かどうか	3	14 (29.2)	19 (39.6)	13 (27.1)	2 (4.2)	0 (0.0)	48(100.1)
3) Aさんは刑務所に行くような危険を冒してまで、奥さんを助ける必要があるかどうか	2	8 (16.7)	9 (18.8)	17 (35.4)	11 (22.9)	3 (6.3)	48(100.1)
4) Aさんが盗むのは自分のためなのか、それとも純粋に奥さんを助けるためなのか	3	3 (6.3)	8 (16.7)	7 (14.6)	19 (39.6)	11 (22.9)	48(100.1)
5) 薬を発見した薬屋の権利は尊重されているかどうか	4	2 (4.2)	8 (16.7)	17 (35.4)	7 (14.6)	14 (29.2)	48(100.1)
6) Aさんは夫として奥さんの命を救う義務があるかどうか	4	6 (12.5)	14 (29.2)	11 (22.9)	11 (22.9)	6 (12.5)	48(100.0)
7) 我々が、他の人に対しどうふるまうかを決めるとき根本となる価値は何だろうか	5	17 (35.4)	14 (29.2)	12 (25.0)	4 (8.3)	1 (2.1)	48(100.0)
8) 金持ちを守るだけの無意味な法の庇護により、薬屋は許されてしまっているかどうか	4 1/2	14 (29.2)	11 (22.9)	14 (29.2)	9 (18.8)	0 (0.0)	48(100.1)
9) この場合、法律が社会の構成員の最も基本的な欲求の実現を阻んでいないかどうか	5	15 (31.3)	8 (16.7)	17 (35.4)	5 (10.4)	3 (6.3)	48(100.1)
10) このように欲が深く、残酷な薬屋は盗まれても当然かどうか	3	5 (10.4)	6 (12.5)	14 (29.2)	13 (27.1)	10 (20.8)	48(100.0)
11) このような非常事態でも、盗むことが、薬を必要としている社会の他の人々の権利を侵害することにならないかどうか	5	10 (20.8)	16 (33.3)	11 (22.9)	8 (16.7)	3 (6.3)	48(100.0)

\*：「道徳的発達段階」については表1を参照。ただし、表5では表1における第5段階と第6段階を合わせて、第5段階としている。

表6 「例話2」に関する回答状況

単位：人（％）

質 問	道徳的発達段階*	非常に重要	かなり重要	いくらか重要	あまり重要でない	全く重要でない	合計
1) 奥さんの家族は安楽死させることに賛成かどうか	3	28 (58.3)	14 (29.2)	4 (8.3)	1 (2.1)	1 (2.1)	48(100.0)
2) 医者のおすべき義務は何だろうか	4	21 (43.8)	21 (43.8)	5 (10.4)	1 (2.1)	0 (0.0)	48(100.1)
3) 我々の生活を統制し、自由な死を禁ずるような社会が必要なのかどうか	4 1/2	10 (20.8)	18 (37.5)	12 (25.0)	4 (8.3)	4 (8.3)	48(99.9)
4) 医者はそれを事故のように見せることができるかどうか	2	1 (2.1)	2 (4.2)	3 (6.3)	8 (16.7)	34 (70.8)	48(100.1)
5) 社会は、生きることを望まない者に、生きることを強制する権利をもつかどうか	5	26 (54.2)	14 (29.2)	4 (8.3)	3 (6.3)	1 (2.1)	48(100.1)
6) 医者は奥さんの苦しみに同情して飲ませるか、それとも死なせてはかわいそうだから、なんとか励ましてあげた方がいいのか	3	12 (25.0)	9 (18.8)	16 (33.3)	5 (10.4)	6 (12.5)	48(100.0)
7) 他者の命を絶つことを手伝うことが、本当にその人の人格を尊重する行為かどうか	5	27 (56.3)	12 (25.0)	6 (12.5)	2 (4.2)	1 (2.1)	48(100.1)
8) いつ命をおえるべきかは、神のみが決めることかどうか	4	2 (4.2)	4 (8.3)	9 (18.8)	7 (14.6)	26 (54.2)	48(100.1)
9) どちらの方が、ひどいことをしたと、世間の人々から思われるか	3	1 (2.1)	0 (0.0)	15 (31.3)	12 (25.0)	20 (41.7)	48(100.1)
10) 医者は、自分自身の行動の基準として、どのような価値に一番重きをおいているのか	5	14 (29.2)	14 (29.2)	11 (22.9)	6 (12.5)	3 (6.3)	48(100.1)
11) 死にたい者に、責任や義務も顧みず死ぬことを許してしまって、社会はうまく機能するかどうか	4	4 (8.3)	13 (27.1)	21 (43.8)	6 (12.5)	4 (8.3)	48(100.0)
12) 社会が自殺や安楽死を許すことが、個人の生命の保証を脅かさないかどうか	3	12 (25.0)	10 (20.8)	18 (37.5)	5 (10.4)	3 (6.3)	48(100.0)

\*：「道徳的発達段階」については表1を参照。ただし、表6では表1における第5段階と第6段階を合わせて、第5段階としている。

表7 「例話3」に関する回答状況

単位：人（％）

質 問	道徳的発達段階*	非 常 に 重 要	か な り 重 要	い くら か 重 要	あ ま り 重 要 で な い	全 く 重 要 で な い	無 回 答	合 計
1) 親切な老人をだますというのは盗むよりもっとひどいことなのかどうか	3	17 (35.4)	15 (31.3)	10 (20.8)	4 ( 8.3)	2 ( 4.2)	0 ( 0.0)	48(100.0)
2) 盗みとだましとると、どちらの方が、より法律に反する反社会的行為か	4	6 (12.5)	7 (14.6)	15 (31.3)	11 (22.9)	9 (18.8)	0 ( 0.0)	48(100.1)
3) 倉庫に押し入ってとると、だましとると、どちらの方が利口な方法か	2	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	4 ( 8.3)	17 (35.4)	27 (56.3)	0 ( 0.0)	48(100.0)
4) 露骨に悪いことをやるのと、表面的には穏やかで下心があるのと、どちらの方が卑しいことだろうか	3	13 (27.1)	14 (29.2)	10 (20.8)	9 (18.8)	2 ( 4.2)	0 ( 0.0)	48(100.1)
5) 資本主義社会で荒稼ぎをしている会社の倉庫から盗むことは、動機によっては悪くないのかどうか	4 1/2	2 ( 4.2)	2 ( 4.2)	9 (18.8)	17 (35.4)	18 (37.5)	0 ( 0.0)	48(100.1)
6) どちらの方が、人間関係の基礎にある価値をふみにじっているか	5	21 (43.8)	14 (29.2)	12 (25.0)	1 ( 2.1)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	48(100.1)
7) Dの場合は直接的に困る人はおらず、Eに比べると大きな害はないのかどうか	4	4 ( 8.3)	5 (10.4)	15 (31.3)	10 (20.8)	13 (27.1)	1 ( 2.1)	48(100.0)
8) Eは後悔して後で返すことがあるかどうか	3	5 (10.4)	12 (25.0)	13 (27.1)	9 (18.8)	8 (16.7)	1 ( 2.1)	48(100.1)
9) どのような行為が最も深く他者をふみにじり、そのことにより自己をおとしめるだろうか	5	22 (45.8)	14 (29.2)	9 (18.8)	3 ( 6.3)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	48(100.1)
10) 個人的におさまるかもしれないEと、社会的事件となるDと、どちらの方が社会的影響が大きいだろうか	4	3 ( 6.3)	4 ( 8.3)	7 (14.6)	22 (45.8)	11 (22.9)	1 ( 2.1)	48(100.0)
11) どちらの方が、自らの行為が引き起こす結果を深く考え、引き受ける意志を強くもっているだろうか	5	15 (31.3)	6 (12.5)	15 (31.3)	9 (18.8)	3 ( 6.3)	0 ( 0.0)	48(100.2)

\*：「道徳的発達段階」については表1を参照。ただし、表7では表1における第5段階と第6段階を合わせて、第5段階としている。

表8 例話別にみた道徳的発達段階の分布および平均値

道徳的発達段階の分布 — 単位：人（％）

道徳的発達段階	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階	第6段階	無 効	合 計	平均値
例話1	0 (0.0)	1 (2.1)	16 (33.3)	30 (62.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.1)	48 (100.0)	4.12
例話2	0 (0.0)	0 (0.0)	15 (31.3)	33 (68.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	48 (100.1)	4.20
例話3	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (27.1)	35 (72.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	48 (100.0)	4.21

注) 道徳的発達段階の判定方法は文献7)に基づいて行った。すなわち、例話ごとに一番重要から四番目に重要と選択された項目の段階に、それぞれ4、3、2、1の得点を与え、例話ごとに段階の値(例えば、段階2なら2、ただし段階4 1/2は4.3)と得点を掛けたものを加え、平均化して段階に換算する。

例： 例話1 一番重要(項目1) 二番(項目2) 三番(項目3) 四番(項目4)  
                   ↓                  ↓                  ↓                  ↓  
                   段階4          段階3          段階2          段階3  
                   (4点×4+3点×3+2点×2+1点×3)÷10=3.2

「盗まない方がよい」11名(22.9%)、「無回答」1名(2.1%)であった。さらにこの問いを考える際に、11項目の重要度について回答してもらったところ、「我々が、他の人に対しどうふるまうかを決めるとき根本となる価値は何だろうか(第5段階)」ということ「非常に重要」と答えた人が17名(35.4%)と最も多かった(表5)。

6. 「例話2」に関する回答状況

次に安楽死のジレンマについて取り上げ、医師は奥さんの頼みを聞いて、奥さんに死ぬための薬を飲ませた方がいいかどうかをたずねた。「飲ませた方がいい」16名(33.3%)、「わからない」24名(50.0%)、「飲ませない方がいい」7名(14.6%)、「無回答」1名

(2.1%)であった。例話1と同様に12項目の重要度は、「奥さんの家族は安楽死させることに賛成かどうか(第3段階)」、「他者の命を絶つことを手伝うことが、本当にその人の人格を尊重する行為かどうか(第5段階)」、「社会は、生きることを望まない者に、生きることを強制する権利をもつかどうか(第5段階)」ということ「非常に重要」と答えた人がいずれも50.0%を越えていた(表6)。

7. 「例話3」に関する回答状況

例話3では詐欺と盗みを比べてどちらがより悪いかというジレンマを取り上げている。まずDとEのどちらの方がより非難されるべきかでは「D」4名(8.3%)、「同じ・わからない」20名(41.2%)、「E」24名

(50.0%)であった。さらに11項目の重要度では、「どのような行為が最も深く他者をふみにじり、そのことにより自己をおとしめるだろうか(第5段階)」「どちらの方が、人間関係の基礎にある価値をふみにじているか(第5段階)」ということ「非常に重要」と答えた人が45.8%、43.8%であった(表7)。

#### 8. 例話別にみた道徳的発達段階の分布

各個人の道徳的発達段階を例話ごとに判定し、その分布をみた。例話1、2、3のいずれにおいても第4段階にもっとも分布が集中し、第5段階以上を示したものはいなかった。道徳的発達段階の平均値は例話1が4.12、例話2は4.20、例話3は4.21であった(表8)。

### IV 考 察

一般に道徳とはその社会が規定する行動の規範を守ることを意味し、道徳性とは行動に対する社会的規制の1つの形である<sup>7)</sup>。看護実践では対象者にとって何が最良のケアであるのかを判断することが求められ、その際には看護職と対象者それぞれの価値が関与している。両者の価値を考えることは倫理的意思決定の第一課題であり、個々の価値体系は教育や文化、宗教、人生経験を通して長い間に形成されていく<sup>8)</sup>。よって価値体系は個人によって異なり、それが各人の判断や行動の取り方の違いとなって現れるのである。看護職と対象者との価値が対立する場合、看護職は対象者の価値を尊重する必要がある<sup>8)</sup>が、価値観が複雑かつ多様化してきている現在、倫理的意思決定に困難をきたすことも多い。このような現状を踏まえて看護倫理教育では看護という特定の状況における、学生の倫理的判断能力をより高めていくための教育が重要となる。そこで本研究では看護学生を対象に、1) 社会的規範や社会的存在性に関する意識の調査から道徳的推論を検討するとともに、2) 道徳性を発達していくものとしてとらえる観点からその発達の状況を検討した。道徳的推論の能力は認知的な発達との関連が非常に深い。そこで道徳的発達段階の尺度と照らし合わせて検討するために、ここでは上記1)、2)の二点から考察を進めていく。

まず社会的規範意識について、高齢者と障害者の場合についての質問はいずれも援助が必要な対象者にどう行動をとるかをたずねたものである。今回の質問の設定では高齢者の場合は一見しただけでは援助性ははっきりしないが、障害者の場合は明らかに援助が必要とわかる場面である。障害者に対しては「どのような状況にあっても手伝う」と回答したのは77.0%であったが、高齢者の場合「どのような状況にあっても譲る」としたのは33.3%と減少していた(表2)。援助の必要性に確証があれば次の行動、すなわち「手伝う」ことに直結しやすいが、席を譲っても断られるかもしれないという状況では、様子を見ることになるのであろう。

また自動販売機に関する質問では、自分の良心との葛藤についてたずねた。その結果43.8%の人が「正規の方法で購入する」と回答した反面、「さっそくその方法でやる」「周りに誰もいなかったら、その方法でやってみる」「友達と一緒にならやってみる」と回答した人を合わせると48.0%であった。この場合、対象は自動販売機という機械であることから、本当に聞いた方法でできるのかどうかを試してみたいという気持ちが強く作用するのかもしれない。機械が対象になる場合は直接的に人をだましたり、あるいは危害を加えたりということをしていないことから良心との葛藤を感じにくくなるのである。そしてこのような状況下では社会的規範意識は低下する場合が起こりうることを示された。

人生観では「毎日が楽しいこと」、働くことについては「経済的自立をする」ことを重要と位置づけている回答が多かった(表3)。経済的自立に関しては学生を対象とした調査であることから考えると経済的側面を重視することはわかるが、その一方で「毎日が楽しいこと」に価値をおくというのは鈴木が指摘した「大学生の幼児化」<sup>9)</sup>の特徴ともいえる。幼児はその発達において自己中心性から自己を抽象化し、社会化の過程を経るなかで道徳性も内在化されていくが、本調査対象には自己中心性の一端が現れていると思われる。

社会的存在性に関する意識では、「今の社会は高齢者や障害者に対する配慮が足りない」ということに対して「大いに思う」「かなり思う」と回答した割合が高い一方、「地域に住む人々が気持ちよく暮らすためには、お互いがまんしなければならぬ」ことについては「いくらか思う」という回答が約50%であった(表4)。社会のあべき姿として理想は求めるが、自分がかまんをしなければならぬということについては消極的になる状況がうかがえる。

これらから道徳的推論に関して、社会のあるべき理想の姿はもっているが、そこで直接的に自己が介在する場合、特に自分がかまんをしなければならぬことや良心との葛藤を生じにくいような状況下では、自己中心性があることにより理想とは異なる対応をすることが予測された。すなわち、自己を取り巻く周囲の状況に影響を受けやすいといえる。

次に道徳的発達段階について検討する。山岸は道徳的発達段階のうち第5段階と第6段階を日本では必ずしもそのままあてはまらず、またコールバーグの定義にも不明瞭な点があることから両者を区別せず、まとめて第5段階としている<sup>3)</sup>。今回は山岸の5段階とコールバーグの6段階という両方の尺度を用いた。ただし、山岸が尺度を5段階としていることから、実際にはコールバーグの第6段階は第5段階と同じ段階として取り扱うこととなる。また、山岸は第4から第5段階へ移行するときにみられる段階を第4 $\frac{1}{2}$ 段階としている<sup>3)</sup>。表5～7に示

した通り、第5段階の項目について「非常に重要」と回答した人が多かったが、各個人の道徳的発達段階の分布では第4段階に分布が集中していた(表8)。

山岸が私立大学農学部3、4年生146名を対象とした調査によると、道徳的発達段階の平均値は例話1では4.09、例話2では4.41、例話3では4.23であった<sup>3)</sup>。これは本調査でも同様の結果であったことから、今回の調査対象は対人関係に価値を置く段階(第3段階)から、第4段階、すなわち「法と秩序」志向の段階<sup>1)</sup>で、法や規則により社会秩序の維持に価値が置かれる段階へと道徳的発達を遂げているとみることが出来る。社会的視点が明確になることで看護者として倫理的意志決定を行う際にもその視点を含めた判断になると期待できる。

また塚本ら<sup>10)</sup>は看護学科2年生81名を対象に、社会的相互作用が看護場面での道徳判断の発達においても有効であるか否かを質問紙調査をもとに検討している。その結果、葛藤するさまざまな視点を含むと思われる社会的相互作用が道徳判断能力の発達に関連することが示唆された。このことから道徳的発達を促進するには、個人と社会的環境との間にある相互作用におけるさまざまな葛藤を社会的視点から経験することが有効なのではないかと考えられる。

人間はその時代の社会形態という現実の中で理性をもって生きる点で社会的存在であり、また人間の行為には理性による意志決定がある<sup>11)</sup>。意志決定が道徳的に妥当であるかどうかはその社会規範による影響も大きい。濱口<sup>12)</sup>は日本人の行動の特徴としてアウトサイド・インの原理から述べている。それによると、他者の側に自己の行為の拠点を置くタイプを「アウトサイド・イン」行為とし、反対に自己の側に行為の拠点を設定するタイプを「インサイド・アウト」行為としている。そして日本人では「アウトサイド・イン」型の行為原理に基づいて振る舞うことが多いが、欧米人は「インサイド・アウト」的に行動する傾向があるとされている。

日本の社会では対人関係の和に価値が置かれるという特徴が、看護における倫理的意志決定の際にも影響を及ぼすと考えられる。対象者自身が最良であると判断したことが、対象者の家族や医療者にとって最良とは考えにくいことも起こりうるであろう。また個人の利益を社会全体の利益性や公平性といった観点から検討した場合に、価値の対立が生じることもありうる。さまざまな価値観が存在する中でどの判断を優先させたらよいのか、そしてそれはどのような経緯でなされた判断であるのかを明確に示す姿勢が今後ますます看護者に求められる。状況によって判断の仕方が変わるというのではなく、基

盤となる道徳性の内在化をめざすことが看護倫理教育の重要な目標である。

以上をまとめてみると本調査の対象となった集団は、道徳的推論は状況による影響を受けやすいこと、および道徳的発達は社会秩序の維持に価値が置かれる段階にあることが明らかになった。本研究は、無記名であるとはいえ教員が学生に対して行った質問紙調査であることから、バイアスを生じる可能性のあることは否めない。しかし、今回の結果を看護倫理教育に活用し、倫理的判断能力についてさらに検討することが今後の課題である。

なお、本研究は平成12年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究C(課題番号12672283)の助成を受けた研究の一部である。

## 文 献

- 1) ローレンスコルバーク：道徳性発達における普遍的なものとの相対性，永野重史編．道徳性の発達と教育〈コルバーク理論の展開〉．東京，新曜社，1985，p22-23
- 2) 櫻井育夫：道徳的判断力をどう高めるか〈コルバーク理論における道徳教育の展開〉．京都，北大路書房，1997，p59
- 3) 山岸明子：青年期における道徳判断の発達測定のための質問紙の作成とその検討．心理学研究51：92-95，1980
- 4) 片田範子，山本あい子訳：看護実践の倫理〈倫理的意思決定のためのガイド〉．東京，日本看護協会出版会，1998，p3
- 5) 総務庁青少年対策本部編：日本の青少年の生活と意識．東京，大蔵省印刷局，1997，p109-126
- 6) 山岸明子：日本における道徳判断の発達，永野重史編．道徳性の発達と教育〈コルバーク理論の展開〉．東京，新曜社，1985，p243-267
- 7) 内海滉監訳：看護学イントロダクション．東京，医学書院，1997，p234
- 8) 前掲書4)，p13-14
- 9) 鈴木雄雅：大学生の常識．東京，新潮社，2001，p108
- 10) 塚本尚子，石川ふみよ，下枝恵子ほか：看護ジレンマ場面における道徳判断の発達と社会的相互作用の関連性の検討．東京保健科学学会誌1：7-10，1998
- 11) 稲葉佳江：看護倫理教育の課題とその内容構成の試み．教授学の探究18：145-161，2001
- 12) 濱口恵俊：何が日本人の行動を決めるのか．日本保健医療行動科学学会年報13：27-34，1998

## A survey on the moral reasoning and moral development of nursing students

Masami Horiguchi, Terumi Ohinata, Hidemi Sakai, Sachiko Kiguchi,  
Erika Tano, Yoshie Inaba

Department of Nursing, School of Health Sciences,  
Sapporo Medical University

### Abstract

The purpose of this survey was to gauge the level of moral reasoning and moral development of nursing students. Data was collected via questionnaire responses gathered from 48 nursing students. The level of moral reasoning was analyzed from the perspective of the inclination of nursing students to help elderly persons and persons with a disability. The level of moral development was examined through responses to three stories in which moral dilemmas were presented. These three stories are based on the DIT (Defining Issues Test) which has been developed for the Japanese adolescent.

The results of the survey can be summarized as follows.

1. Sixteen of the nursing students expressed an interest in helping elderly persons, while thirty-seven of the nursing students expressed an interest in helping persons with a disability.
2. Based on the first story, thirty of the nursing students exhibited a stage 4 level of moral development. For the second and third stories, thirty-three and thirty-five students respectively were classified into the stage 4 level of moral development.

The survey revealed that the nursing students' level of moral reasoning is impacted by the social environment, and that the students have an adequate level of moral development.

Key words: Nursing students, Moral reasoning, Moral development